



豪快に運んでくる姿はかっこよかったです。そしてそのあわびの一つ一つの大きさ、値段、管理体制にかなり驚かされました。キロ五千円〜七千円もするということ、そのようなアワビを傷つけないように見ていくのは緊張しました。ましてや阿部の方々には美波町のほかの地域の方々よりもさらに物言いがストレートに感じたので、失敗したら何を言われるんだろうと最初は恐れていました。が、勤務を続けていくうちに、関わってくださる人が増えて、話してみると暖かい人たちだと感じました。

ホームステイ

今回の事業で最も心に残っているのがこのホームステイかもしれません。四家庭にお邪魔させていただきました。どの家庭も本当に居心地がよくて、離れるときにさみしく

なるような家庭ばかりでした。このように四家庭をまとめ紹介するのが失礼すぎると思うくらいです。もし将来僕の住む町がホームステイの受け入れを探しているときは、積極的に受け入れて、美波町でももらったように暖かく接してあげたいと思えました。今度美波町を訪れるときにも、全家庭にもう一度顔だけでも出せたらいいなと思います。この場を借りて改めて感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございます。

三、提言

美波町のことを全く知らない若者が、一週間滞在した中で、美波町で何をすれば地域づくりができるかというのを考えました。そしてそれを発表する場を最終日に設けていただきました。

今回僕が提案した内容は、東日本大震災で被災した第一次産業の従事者を受け入れる第三セクターの起業地域づくり案について、積極的な住民投票制度により可否を問う。

以上の二つです。

①については、美波町には海・山・川・田などの豊富な自然資源があったこと、また多くの空き家が目に付いたことから思い付きました。第三セクターにする理由は、被災者雇用開発助成金制度に注目しました。この制度は、被災者を

雇った事業主に助成金を支払うというものです。公企業には支払われません。また私企業だと、助成金はもらえないのですが、利益が発生しない事業なので成り立たないと思います。第三セクターが適切だと考えました。

家族ぐるみでの長期的な移住が見込めること、最も被害を受けた第一次産業従事者がこれまでと同じ仕事を続けられること、また慈善的な事業に自治体がかかわること、町全体のイメージアップにもつながる思い、このような提案をさせていただきました。これに関しては、役場の方々から「第三セクターにしないで臨時採用という形をとれば助成金はもらえる」「空き家は住める状態ではないが、年に何回か戻ってくる人も多く、提供できる状態でもない」などの意見をいただきました。

②は、既述の通り、美波町の人々の我が強はつきりとした性格と、同じ町内なのに地域ごとにカラーがあって、非常に細かく分岐しているということを強く感じたことから思いつきました。

滞在中、たくさんの方から地域への思いや地域づくり案について伺いました。どれも若者の僕なんかにはとても思いつかない、素晴らしいものばかりでした。また、多くの自然資源を中心に、地域づくりのきっかけになりそうなもの

もたくさん目に付きました。ではどうすればうまく地域づくりができるのか？そう考えたときに、美波町では「外部(町外)への地域づくり」ではなく「内部(町内)での地域づくり」が必要だと考えました。

伊座利地区を例にとると、「学校を存続させなければならぬ」という思いから住民が一体となつて立ち上がり、人口を増やすことに成功しました。これがまさに「内部での地域づくり」です。一つの目標に向かい、住民が一体となれるような状況を作るには、住民投票制度が適切だと考えました。美波町の人々は、その性格がゆえに、まとまるのはそう簡単じゃないのかもしれない、と正直思いました。しかしそれよりも、まとまったときにどれほど大きな力になるのだろうか、という気持ちのほうに勝りました。地域づくり案を住民投票制度により決めることで、その案は町民みな意見となり、一つの目標になり、実現のために住民が一体となつて、地域づくりの一步目を踏み出せると考えました。この提言に関しては、「町議会との連携をどう取っていくのか」などの懸念を出していただきました。

どちらの提言に関しても、まだまだ未熟な僕が考えたものでしたが、新たな視点だという風におっしゃっていただき、足りない頭をフルに使

ってみてよかったです。また、自治体に対しての考えを最初から最後まで考えるのは初めてで、調べていくと知らないことがかなり多くあり、勉強になりました。

四、最後に

終わつた後に振り返つてみると、内容が濃すぎて二ヶ月くらいだったのではないかと感じます。机に向かうのも重要ですが、実際に行動してみるのはもっと重要なかもしれないと思います。

忘れないようにと、毎日小さいノートに十行ほどの日記を書いていたのですが、それを見返してみると、よく目に付くのが「感謝」と「楽しい」という言葉です(ちなみに三番目に多く用いられていたのは「しんどい」でした)。二十一年生きてきて、最近純粹さがなくなってきたと感じているところだったので、美波町の暖かい人柄に触れてなんだかそういうものを自然と取り戻せていた気がします。多くの方に、「また来ることが本当の感謝だ」と言っていたら、強く共感しました。いつか元気な姿を見せて、その時にはもっとしっかりと地域のことを考えられればな、と思います。僕に関わってくださったすべての方々に心から感謝しています。ありがとうございます！